

平成 29 年 2 月 1 日

第 14 回長崎サミット

1. 日 時 平成 29 年 2 月 1 日 (水) 9 : 30 ~ 12 : 30
2. 会 場 ホテルニュー長崎 鳳凰閣の間
3. 次 第
 - (1) 開会挨拶 (5 分、商工会議所会頭)
 - (2) 経過報告と提議 (15 分、推進会議議長)
 - (3) トップによる意見交換 (130 分、進行役：推進会議副議長)
 - (4) 報道機関質疑応答 (30 分)

<資 料>

- ・ 第 14 回長崎サミットへの提議

<展 示>

- ・ 世界遺産 (長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産) 【長崎県】
- ・ アンテナショップ 【長崎県】
- ・ 長崎県産酒で乾杯 【長崎県】
- ・ 外国人観光客の受入態勢の取組例 【長崎市】
- ・ 魚の美味しいまち長崎 四季の美味しい魚 【長崎市】
- ・ 長崎新ご当地グルメ 【長崎市】
- ・ 沈黙 - サイレンス - 【長崎市】
- ・ 2017 長崎ランタンフェスティバル 【長崎市】
- ・ 手作りランタン体験 【長崎青年会議所】
- ・ 長崎 100km 徒歩の旅 【長崎青年会議所】
- ・ ソーシャルメディア仲介ロボット (見守りロボット) 【長崎大学】
- ・ 漁業と共生した潜水技術者育成トレーニング他 【日本漁場藻場研究所】
- ・ 魚の美味しいまち長崎 海の幸グルメクーポン 【長崎都市経営戦略推進会議】

平成29年2月1日

第14回長崎サミットへの提議

長崎サミット

宮脇 雅俊 長崎商工会議所会頭	中村 法道 長崎県知事
坂井 俊之 長崎経済同友会代表幹事	田上 富久 長崎市長
宮崎 正生 長崎県経営者会長	片峰 茂 長崎大学学長
吉田 宗由 長崎青年会議所理事長	

殿

長崎都市経営戦略推進会議
議長 里 隆光

第14回長崎サミット開催にあたり、活動経過報告を含め、意見交換をいただく内容について提議いたします。

長崎サミットプロジェクトは、長崎地域の人口減少、GDP衰退への危機感の共有のもと、6年前に「みんなでつくろう元気な長崎」をスローガンに産学官で立ち上がりました。

その後、夜景の観光資源としての磨き上げの取組に対する日本商工会議所「全国商工会議所きらり輝き観光振興大賞」受賞、長崎都市経営戦略推進会議（長崎サミット）の活動が地方創生に関する特徴的な取組事例として内閣府から選定されるなどの評価を受けており、確信を持って今後の取組を進めることが必要であると思います。

長崎サミットでは、長崎地域の進むべき方向性を協議・示唆して、同時に多数の地域の皆様にその方向性について確認・理解をしていただき、幅広く参画を呼び掛ける場であります。

その方向性に基づき、長崎都市経営戦略推進会議等の関係団体が具体化に向けた議論、活動を展開し、コミュニケーションのためのテーブルの拡充を含め一定の成果を挙げております。

前回（平成28年8月1日）第13回長崎サミット以降の主なトピック等は以下のとおりです。

※は、前回、第13回長崎サミットにおける発言等のあったもの。

《全般》

- ※ 地域経済の活性化に向けた資金支援のための民間組織の設置推進
- ※ 九州新幹線（西九州ルート）に係るFGTの耐久走行試験再開について、平成29年初夏に評価委員会において判断
 - ・ 山陽新幹線への確実な乗り入れによる開業効果の最大化を図るためにどのような対応が必要か情報収集を行いながら検討
- ※ 長崎都心部で進められている主要事業（まちづくり）
- 長崎都市経営戦略推進会議の活動を地方創生の特徴的取組事例として内閣府が選定

《基幹製造業》

- ※ 造船・海洋人材育成、研究開発拠点の検討
 - ・ ワーキングチームの設置
 - ・ 長崎海洋産業クラスター形成推進協議会の活動 等
- 基幹製造業合同説明会
 - ・ 学生を含め約450名の出席

《観光》

※ 長崎市版DMO

- ・ 地域の多様な関係者を巻き込んだ観光地域づくりのかじ取り役となる組織を目指し、運営体制の整備、財源の確保、人材の確保・育成等を計画的に推進

※ MICE事業の推進

- ・ MICE施設を建設・運営する業者選定等に係る予算議決

※ 長崎総おもてなし運動

- ・ 「おもてなし日本一」を目指して県内全域で産学官民が協力しておもてなし活動を実践

※ 夜景観光の推進

- ・ 「2016 光のおもてなし」等の実施

《水産》

- 観光と水産(長崎の魚)を結び付けた旅行商品の開発等による「魚の美味しいまち長崎」の活性化

- ・ 「魚の美味しいまち長崎 海の幸グルメクーポン」の販売促進

《大学》

- ※ 「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+事業)への取組

- 長崎大学による新たな感染症研究拠点(BSL-4施設)設置に係る長崎大学と長崎市・長崎県との合意

いよいよ、当プロジェクトも目標期限の2020年まで残り3年余りとなり、具体化に向けた第3ステージも2年半が経過し、これまでの実績等も踏まえ、長崎地域の基盤づくりにつながるような成果が求められています。

私どもは、早くから長崎サミットプロジェクトに取り組み、是非とも「元気な地域のグループ」に入るべく、目標達成に向け2020年までの3年余りを、活動の趣旨、進捗状況を睨みながら、今まで以上に精力的に連携と分担を深め、活動していきたいと考えています。

重点4分野で外貨の獲得を図り、内需を喚起する手法による推進スケジュール(別紙1)、推進における基本的な考え方(別紙2)をしっかりと確認し、当初掲げた目標達成に向け、長崎地域が今までよりも少しでも元気になるよう活動を推進してまいります。

については、①2020年の目標達成(地域経済の浮揚)に向け、今、何が足りないのか、必要なのか、②次代へ向けて、何を重点的にやっておくべきかを主な視点としてご意見をいただきたいと存じます。

2. 次回長崎サミット日程

平成29年8月1日(火) 午前中

長崎サミット(長崎都市経営戦略推進会議)プロジェクト

H21年8月～22年7月

H22年8月～23年7月

H23年8月～26年7月

H26年8月～

目標年次 H32

09年8月、都市経営戦略策定検討会発足

10年5月、提言「みんなでつくろう元気な長崎」

10年7月、長崎サミット(長崎都市経営戦略推進会議)発足

	推進体制づくりの第1ステージ	経済基盤を上げる第2ステージ	成果を示す第3ステージ
全般	<ul style="list-style-type: none"> ◎H22.7 第1回長崎サミット開催 ・推進会議年9回程度開催 ・コアミーティング毎週開催 	<ul style="list-style-type: none"> ◎H24.8「長崎都市経営戦略推進会議への資金支援協議会」設置 ◎H25.11MICEセンター実現支援要望 ◎H25.2「長崎の教会群」の世界遺産登録要望活動 	<ul style="list-style-type: none"> ◎H29.2第14回長崎サミット開催 ◎H29.8資金支援協議会の強化、法人化(予定) ◎H26.8「MICE誘致推進協議会」設立 ◎H33.11施設完成予定 ◎H30年度登録(目標) <p>※ 活動の層、地域の広がり課題を残している。</p>
基幹製造業		<ul style="list-style-type: none"> ◎H24.11地域活性化総合特区指定要望 ◎H25.2「ながさき海洋・環境産業拠点特区」指定 ■H23.8客船連続建造に向けた環境整備 ■H23.8海事展誘致・開催検討 ◎H23.9第1回基幹製造業合同説明会 ■H23.8客船工事関連事業への中小企業参入促進検討 	<ul style="list-style-type: none"> ◎H26.7 海洋再生可能エネルギー実証フィールドに県内3海域選定 □H28.11 造船・海洋人材育成拠点等検討 ◎H28.11第6回基幹製造業合同説明会 □地場企業への人材確保検討
観光	<ul style="list-style-type: none"> ■H22.12観光関連組織連携強化検討 	<ul style="list-style-type: none"> ■H23.8産業観光資源化検討 □H24.11観光資源の再構築検討・和の磨き活動 ■H23.8クルーズ拠点港化検討 □H25.8県のアンテナショップの在り方検討 ◎H23.1おもてなし強化、インバウンド対策検討 ◎H24.3長崎県総おもてなし運動推進会議設立 	<ul style="list-style-type: none"> □H28.3県のアンテナショップ開設 ・アダプトプログラム、おそうじさるく実施 ・「ワンランク上のおもてなし」活動支援 ※ H29「交流の産業化」、長崎市版DMO関連のテーマについて検討(予定)
水産		<ul style="list-style-type: none"> ◎H23.5「長崎かんぼこ王国」、「長崎かんぼこ王国推進委員会」設立 ・「長崎おでん」、「ちゃポリタン」、「出島揚げ」発売 	<ul style="list-style-type: none"> ◎H27.8 魚をテーマとした観光商品、魚のブランド化、消費拠点等検討 ・H29.1「長崎海の幸グルメクーポン」発売
大学教育		<ul style="list-style-type: none"> ◎「留学生3000人委員会」設置 ・H25.2「長崎留学生支援センター」設置 	<ul style="list-style-type: none"> ◎H26.12新卒者の地元就職率の向上 ◎H27.9COC+事業に長崎大学が採択

凡例:◎継続実施、□テーマの見直し等、■断念・終了・中断

長崎サミットプロジェクト(長崎都市経営戦略推進会議)運営の考え方
～「みんなでつくろう元気な長崎」の達成に向けて～

活性化の考え方

地域の活性化が県、九州、日本の活性化につながる。

地域全体の活性化が、個別業界、企業等の活性化につながる。

活性化の基本戦略

地域衰退に歯止めをかけるには、基盤の維持・拡充しかない。

- ・ 強いものを磨き、弱いものを強くし、他地域との差別化を図る。
- ・ イベントではなく基盤につながる活動を重視する。
- ・ 既存イベントも基盤につながるよう工夫する。

重点化推進による、成果追求を図る。

- ・ 経済4分野を中心に外貨導入拡大

基本的立場

このプロジェクトは仕掛けであり、応援団の役割を担う。

より一層の問題意識・課題の共有化と推進の連携を目指す。

- ・ 連携と分担の強化

より一層、民間の主体性を発揮する。

- ・ 長崎サミットの示唆等に基づき推進会議で推進策を決め、具体化を図る。

推進面の戦略

P D C Aを徹底する。

- ・ 定性・定量両面の目標設定とそのフォロー

イノベーションに努める。

- ・ スピード化、持続化

関係者との連携をより高め、効果を追求する。他活動と可能な限り連携に努める。

発信力を高めることでより効果的な活動を展開し、差別化を図る。

ステージを設定し、効果を高める運営を行う。

- ・ 今は成果を示す第3ステージ

これまでの活動・成果

全般

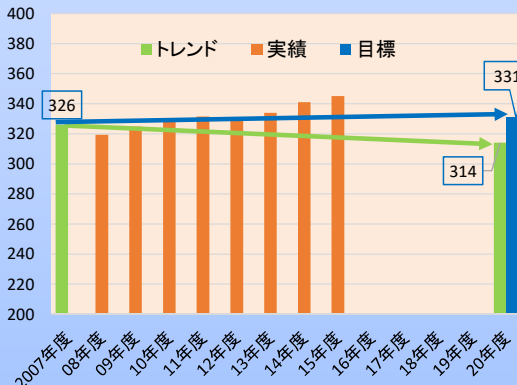
【進捗状況・評価】

○1人当たり名目GDP(長崎地域)
2015年度推計 345万円 (2020年度目標331万円)
→ 1人当たりのGDPは足もと上ぶれで推移。
人口減少続き、今後のGDP減少が懸念される

【今後の主な活動(予定)】

- 着実に成果につなげるための体制構築
・推進会議への資金支援協議会の充実強化(法人化)、サミットプロジェクト関連事業への支援窓口一本化
- MICE誘致、MICE関連ビジネスへの参入促進
- 新幹線の開業等を見据えたまちづくり

1人当たりGDP(名目)のトレンド・目標・実績



資料:市町民経済計算、異動人口調査、14、15年度は湘南エコノメトリクスの推計値

基幹製造業

【主な活動・成果】

- 客船等高付加価値船の建造態勢への支援(倉庫・宿舍等の確保、等)
- ながさき海洋・環境産業拠点特区指定
- 海洋再生可能エネルギー実証フィールドの本県海域指定

【進捗状況・評価】

- 基幹製造業本体の生産規模
15年度(4社グループ) 4,384億円 (20年度の目標 5,160億円)
- 地元企業の受注率
15年度44.5% (20年度目標54%)
→ 水準維持は高いハードル



資料:長崎都市経営戦略推進会議

【今後の主な活動(予定)】

- 海洋再エネの実証から商用化を見据えた産業集積づくり、各種プロジェクトへの地場企業の参画支援
- ながさき海洋・環境産業拠点特区を活用した、造船・海洋にかかる人材育成・研究開発拠点の整備

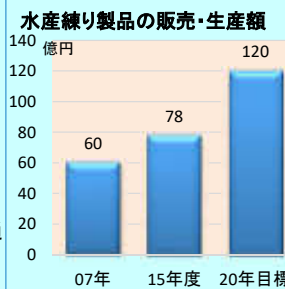
水産

【主な活動・成果】

- 水産練り製品の販売額拡大
・「長崎かんぼこ王国」、「長崎かんぼこ王国推進委員会」設立
・「長崎おでん」等の商品化・販売、「ちゃポリタン」、「おでん電車」等「かまぼこの日」関連イベント開催
- 「魚の美味いまち長崎」ワーキングチーム設置
・水産物を長崎観光の有力なコンテンツ化する旅行商品の造成
「魚の美味しいまち長崎 海の幸グルメクーポン」16年12月販売開始

【進捗状況・評価】

- 水産練り製品の販売・生産額
15年78億円 (20年の目標120億円)
→ 急がれる販売体制強化、新たな柱づくり



資料:長崎都市経営戦略推進会議

【今後の主な活動(予定)】

- 水産練り製品の一層の販路拡大に向けた支援
- 魚のブランド再構築、消費・流通拠点の整備検討

観光

【主な活動・成果】

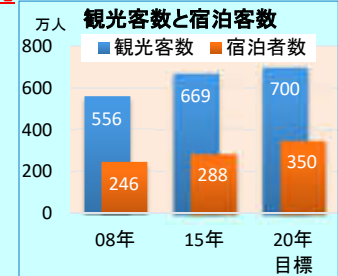
- 夜景観光の推進(光のおもてなし、電波塔ライトアップ、長崎夜曲制作、等)
- おもてなしの充実(アダプト・プロプログラム、おそうじ さるくの推進、多言語標識・案内、等)
- 情報発信の充実・強化 (県アンテナショップ設置(16年3月、東京))

【進捗状況・評価】

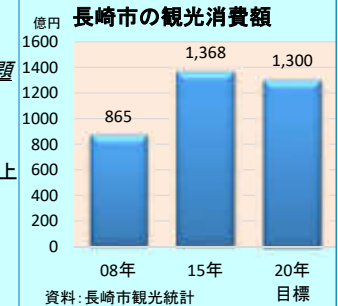
- 観光客数(15年、長崎市)
669万人、宿泊288万人 (20年の目標 700万人、宿泊350万人)
- 観光消費額(15年) 1,368億円 (20年の目標 1,300億円)
→ 追い風で客数増も、宿泊客増加に課題

【今後の主な活動(予定)】

- 「長崎市版DMO」の創設
- 「おもてなし日本一」を目指し、ワンランク上のおもてなし」を実践



資料:長崎市観光統計



資料:長崎市観光統計

大学

【主な活動・成果】

- 産学官連携の推進(工業高校生の地元企業就職促進)
- 留学生3千人体制の推進 (13年2月、長崎留学生支援センターを設立して長崎留学生支援センターを設置。留学生の募集・生活・就職支援活動実施)

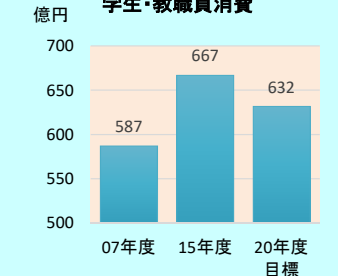
【進捗状況・評価】

- 長崎工業高卒業予定者(16年3月)の県内企業への就職率53%(前年34%)
→ 工業会、工業高の多様な取り組みが奏功。今後他の校種・大学への対策強化
- 留学生数
16年5月 1,412人 (20年度目標 3,000人)
(日本語学校含めると1,819人、
秋入学、短期留学は未集計)
→ 留学生支援センターの体制強化、住環境・就職等受入環境の充実に向けた支援体制強化

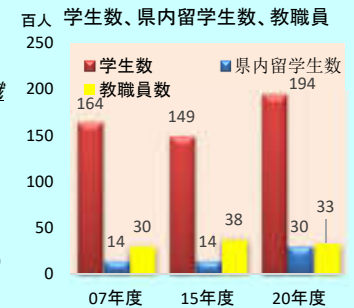
【今後の主な活動(予定)】

- 住環境・就職支援等受入環境充実事業、長崎ブレイクスルー(グローバル人材育成)事業等による留学生の活用・定着の推進
- 県内企業に就職・定着する人材育成への産学官一体となった取り組み(「COC+」、「Nなび」)の活用促進、等)

大学支出および学生・教職員消費



資料:各大学、学生生活調査



資料:学校基本調査、日本学生支援機構

4分野における主要項目の進捗状況

資料3-2

項目		当初	現状	2020年	資料	
基幹 製造業	基幹製造業本体(4社グループ)の生産高	08年度) 5,160億円	15年度) 4,384億円 前年度比1.9%減	5,160億円	長崎市経営戦略推進 会議	
	地元受注率10%ポイント引上げ	08年度) 44.0%	15年度) 44.5% 前年度比1.0ポイント上昇			
	4社グループの地元発注額	08年度) 1,878億円	15年度) 1,875億円 前年度比16.1%増			
	雇用総数	08年度初) 11千人	16年度初) 9.5千人 前年度比10.0%増			
観光	観光消費額	08年) 865億円	15年) 1,368億円 前年比10.1%増	1,300億円	長崎市文化観光部	
	観光客数	08年) 556万人	15年) 669万人 前年比6.1%増	700万人		
	宿泊者数(延べ滞在数)	08年) 246万人	15年) 288万人 前年比5.0%増	350万人		
	外国人延べ宿泊者数		15年) 34万人 前年比59.2%増		長崎国際観光コンベン ション協会	
	コンベンション開催件数		15年) 1,480件 前年比45.2%増			
	コンベンション参加者数		15年) 33万人 前年比35.3%減(14年国体等が要因)			
	外航クルーズ客船寄港数		16年) 197隻 前年比52.7%増		長崎市文化観光部	
	外航クルーズ客船乗客・乗員数		16年) 71万人 前年比65%増			
	主要観光施設入場者数 グラバー園		16年) 101万人 前年比15.0%減(速報)			
	軍艦島 訪問数		16年) 27.3万人 前年比2.2%増		長崎電気軌道	
	夜景観光 稲佐山展望台利用者数		16年1~11月) 48.4万人 前年比5.5%増			
	交通機関 路面電車		15年度) 1,765万人 前年度比1.1%増			
		タクシー乗客数		15年度) 1,368万人 前年度比1.5%減		長崎市タクシー協会
		JR長崎駅 乗降客数		15年度) 811万人 前年度比3.8%増		JR九州長崎支社
		長崎空港乗降客数		15年度) 311万人 前年度比3.3%増		長崎空港ビルディング
	有料道路利用台数 出島道路		15年度) 271万台 前年度比2.7%増		県道路公社	
	イベント観客数 ランタンフェスティバル		16年) 90万人 前年比2万人減		長崎市文化観光部	
	帆船まつり		16年) 5万人 前年比17万人減(熊本地震で縮小)			
水産	練り製品販売・生産額	07年) 60億円	15年度) 78億円 前年度比5億円増	120億円	長崎かんぼこ王国	
	長崎かんぼこ王国 会員数		15年度) 正会員16社、賛助会員33社			
	長崎おでん		15年度) 1.5億円 前年度比0.2億円増			
	チャポリタン		15年度) 2億円 前年並み			
大学	学生・教職員消費及び大学支出	08年度) 587億円	15年度) 667億円 08年度比80億円増	632億円	長崎経済研究所推計	
	学生数3000人、教職員300人増	07年度) 学生16.4千人	16年5月) 14.8千人 07年度比1.6千人減		学校基本調査、各大学	
		07年度) 教職員3.0千人	16年5月) 3.8千人 07年度比0.8千人増			
	留学生数(日本学生支援機構まとめ、県内)	08年5月) 1,418人	16年度) 1,412人 08年比6人減 総計(含む日本語学校) 1,819人 秋入学・短期留学は未集計	3000人	長崎留学生支援センター	
地域内産出額		07年度) 3兆83百億円	13年度総計) 3兆85百億円	3兆59百億円	長崎経済研究所推計	
*県内総生産(名目)		07年度) 4兆45百億円	13年度総計) 4兆39百億円		長崎県民経済計算	
有効求人倍率(ハローワーク長崎管内、実数)			16年11月) 1.01倍 前年比0.02ポイント低下		長崎労働局	

第14回長崎サミット発言項目・要旨

1. 「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の世界文化遺産登録に向けた取組

①知事

- 「正式版推薦書」提出の報告

2. 交流の産業化、長崎市版DMO

①市長

- 「交流の産業化」
 - ・交流都市としてのレベルアップを目指す
 - ・新しい交流のスタイルをみんなでつくり、産業に結び付け、経済効果を上げ、人口減少にも歯止め
 - ・民間との連携、民間が主体となった活動の必要性
 - ・顧客を増やし、顧客に高付加価値の商品を提供し、稼ぐことにつなげる取組を民間主役で進める。

○長崎市版DMO

(・今後の進め方について、長崎市の方針を説明)

②経済同友会代表幹事

- 「交流の産業化」、「長崎市版DMO」について、同友会も積極的に提案・参画。地域の生産性向上に寄与。
- 経済同友会の提言を踏まえ、DMOの数値目標の明示が必要
- インバウンドの急増が期待される中で、儲かるビジネスモデル構築に積極的に取り組む。

③商工会議所会頭

- 「交流の産業化委員会」の設置による具体的戦略検討
- 「長崎市版DMO」への期待
- 県産食材を使った料理の提供、満足度の高い店舗の情報発信
 - ・満足感が得られる飲食店の情報発信
 - ・「魚の美味しいまち長崎 海の幸グルメクーポン」等
- おもてなし強化

④JC理事長

- おもてなし「出前講座」を模索
- 長崎主要地域の口コミ等客観的意見を取り入れた観光振興

3. スコットランドとの交流拡大

①市長

○交流の状況

- ・市民友好都市 アバディーン市
- ・海洋再生エネルギー分野におけるビジネスマッチング
- ・2019年ラグビーW杯事前キャンプ地

○あらゆる分野での交流の拡大が期待されることから、様々なレベルの幅広い交流が必要

②知事

○これまでの交流・連携の状況

○新たな交流への取組

③経済同友会代表幹事

○長崎海洋産業クラスター形成推進協議会の交流

○海洋エネルギーのパートナーとして長崎県に海洋エネルギー関係の企業集積を図りたい。

④長崎大学学長

○大学の交流の状況

- ・海洋エネルギー開発研究の先進地域であるスコットランドとの交流
ヘリオットワット大学、エンジンバラ大学、スターリング大学

○今後の新たな交流の可能性

⑤J C 理事長

○J C I スコットランドとの交流を模索

4. M I C E の推進

①市長

○現状

○交流拠点施設としての事業化の可能性が見えた。

今後M I C E 関連事業者を選定し、平成 33 年 11 月完成を目指す。

○民間の主体的な取組の必要性

②商工会議所会頭

○M I C E 誘致への取組

- ・「女性会九州大会」、「日商観光振興大会」、「青年部全国大会」等の誘致

○M I C E 誘致に必要な資金の確保対策（推進会議の資金支援団体）、団体への資金支援

○M I C E ビジネス参入企業への支援

③J C 理事長

○M I C E 誘致への取組

5. 新幹線の開業効果の最大化、まちづくり

①経済同友会代表幹事

- 関西経済圏への直通運航の実現が経済効果の最大化につながる。実現に向け、県・市と協力していく。
- 県のアクションプラン策定にも積極的に関与

②市長

- 開業効果を最大化するためには、長崎を魅力的な街にする取組が重要
- 新幹線は、長崎と中国・関西圏をつなぐことで本来の開業効果を発揮
- 新幹線は、最終的な西九州ルートの内り方が重要。国に対して、そこに至る道筋を早急に示していただくよう、県、沿線自治体一体となって働きかけ。
- まちづくりの計画

③知事

- フリーゲージトレインの技術開発動向等
- アクションプラン策定
 - ・アクションプランの内容
 - ・アクションプランに係る民間の取組の必要性

6. 人材の確保・定着。COC+事業への取組

①長崎大学学長

- COC+事業への取組
- COC+事業への企業、自治体の協力依頼
 - ・魅力ある就職先の創出 等
- 長崎ブレークスループロジェクト「トビタテ！留学 JAPAN「地域人材コース」」
 - ・事業内容
 - ・支援企業の募集

②経営者協会会長

- 「Nなび」活用等について、WTの取組等

③知事

- 「Nなび」への企業情報、求人情報登録の促進。企業の魅力のPRを。

④JC理事長

- 青少年育成事業の実施
- 「長崎愛」を醸成する事業を実施

⑤商工会議所会頭

- 地場企業をよく知ってもらうための取組
 - ・工場見学会、企業説明会

- ・COC+事業への協力。大学生と地場企業のマッチング
- ・N なび周知

○魅力ある地場企業づくりへの支援。中小企業支援体制の拡充

7. サミットプロジェクト支援に係る資金支援の強化

①商工会議所会頭

- 資金支援体制（法人化）を積極的に支援
 - ・経済界が全面的にバックアップすべき
- 資金支援に当たっての地域振興への寄与度の精査の必要性

②経済同友会代表幹事

- 長崎サミットプロジェクト関連事業をさらに推進するには、経済界に求められる支援の窓口を一本化し、支援の透明性を確保するためにも法人化は必要
- 多くの企業・団体に会員になってもらい、目標額として 5,000 万円は必要
 - 多くの企業・団体の積極的協力が必要

8. 造船・海洋人材育成・研究開発拠点整備、海洋再生エネルギー、大型客船建造

①経済同友会代表幹事

- 造船・海洋人材育成・研究開発拠点整備については昨年 11 月にWT を立ち上げ、2025 年に必要な人材の確保に向けた検討を行うこととしている。
 - ・現在、2025 年に必要な人材の把握のためのアンケート実施中
 - ・2019 年度の体制整備を目指す。

②長崎大学学長

- 海洋エネルギー開発からその高度利用までを統合した広範な海洋人材育成への貢献
- 「日本財団オーシャンイノベーションコンソーシアム」への参加

③市長

- ワーキングの検討においては、地域の基幹産業である造船造機産業のレベル向上につながるものになるよう期待
- 拠点設置により、地域経済に波及効果を。
- 長崎市も積極的に支援

④経営者協会会長

- 造船・海洋人材育成等に係る三菱重工の取組との連携
- 大型客船建造の現状、建造に当たっての協力への謝意

9.水産振興

①長崎大学学長

- 水産業を取り巻く環境は非常に厳しく、長崎サミットプロジェクトの重点分野の一つである水産業について長崎都市経営戦略推進会議においても検討を行うべきではないか。検討の際は、その一員として協力する。

②市長

- 長崎市「魚の美味しいまち長崎」の取組
 - ・「四季の美味しい魚」選定。提供店の PR
 - ・魚を使った新・ご当地グルメの PR
- 観光客等への情報発信強化による消費拡大、食に関わる地域産業の活性化、

10. BSL-4 設置に向けた取組

①長崎大学学長

- 長崎県・長崎市との合意形成
- 今後の取組
 - ・世界最高水準の安全性の確保
 - ・県・市からの要請事項にしっかり対応
 - ・施設が県・市の発展に貢献し、地域の誇りとなるよう取り組む
 - ・来年度は、実施設計、安全対策マニュアル作成、地域との議論を深める機会を設ける。

②知事

- BSL-4 施設の整備は、感染症に対する県民の安全・安心に資するとともに、我が国の感染症研究の向上や地域経済の発展に寄与するものと期待
- 施設の建設・運営について注視。世界最高水準の安全性を備えた感染症研究拠点形成のため、関係機関と連携
- 長崎大学の地域住民に対する丁寧な説明が必要

③市長

- 社会貢献度が高い施設、感染症研究や人材育成への取組は意義がある。
- 世界最高水準の安全性実現、地域との信頼関係構築に最大限の努力を。

第14回長崎サミット進行表

	長崎商工会議所	長崎経済同友会	長崎県経営者協会	長崎青年会議所	長崎県	長崎市	長崎大学
「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の世界文化遺産登録に向けた取組					① ○「正式版推薦書」提出の報告		
交流の産業化 長崎市版DMO	③ ○「交流の産業化委員会」での具体的戦略検討 ○長崎市版DMOへの期待 ○県産材料を使った料理の提供、満足度の高い店舗の情報発信 ・「魚の美味しいまち長崎 グルメクーポン」等 ○おもてなし強化	② ○「交流の産業化」、「長崎市版DMO」には積極的に提案・参画し、地域の生産性向上に寄与 ○経済同友会からの提言を踏まえ、DMOの目標の早急な設定が必要 ○インバウンドの急増が期待される中、儲かるビジネスモデル構築に取り組む。		④ ○おもてなし「出前講座」の模索 ○長崎市内主要地域のロコミ等の客観的意見を取り入れた観光振興		① ○交流の産業化 ・交流都市としてのレベルアップ ・民間との連携、民間の主体的活動 ○長崎市版DMO (・今後の進め方等について、長崎市の方針を説明)	
スコットランドとの交流との交流拡大		③ ○長崎海洋産業クラスター形成推進協議会の交流		⑤ ○JCIスコットランドとの交流を模索	② ○これまでの交流・連携の状況 ○新たな交流への取組	① ○交流の状況 ・アバディーン市、海洋、ラグビー-W杯キャンプ ○様々なレベルでの幅広い交流につなげられないか	④ ○大学におけるこれまでの交流の状況 ・海洋再生エネルギー ○今後の新たな交流の可能性
MICEの推進	② ○MICE誘致への取組 ○MICE誘致に必要な資金の確保対策(推進会議資金支援団体)、資金支援 ○MICEビジネス参入企業への支援			③ ○MICE誘致への取組		① ○現在の状況 ○交流拠点施設としての可能性が見えた ○民間の取組の必要性	
新幹線の開業効果の最大化まちづくり		① ○開業効果の最大化に向けて県・市に協力 ○県全体で産学官が一体となって地域が儲かる商品開発を進めるべき。 ○開業時に観光客等が自由に回遊できるようにする。アクションプラン策定にも積極的に関与			③ ○新幹線に関する動向 ・FGTの技術開発動向等 ○アクションプラン策定について ・プランの内容等 ・アクションプラン策定に係る民間の取組の必要性	② ○開業効果最大化のための魅力的なまちづくり ○長崎・中国・関西圏をつなぐことで開業効果発揮 ○最終的な西九州ルートの姿を、道筋を示すよう要望 ○まちづくりの計画	
人材の確保・定着COC+事業への取組	⑤ ○地場企業をよく知ってもらうための取組 ○魅力ある中小企業の育成支援 ○中小企業支援体制強化		② ○「Nなび」活用等について、WTの取組等	④ ○青少年育成事業実施 ○「長崎愛」を醸成する事業への実施	③ ○「Nなび」への企業情報、求人情報登録促進。企業の魅力のPR		① ○COC+事業への取組 ○COC+事業への自治体、企業の協力の依頼 ○「長崎ブレイクスループロジェクト」
サミットプロジェクトに係る資金支援の強化	① ○資金支援体制(法人化)を積極的に支援 ○資金支援に当たっての地域振興への寄与度の精査の必要性	② ○支援の窓口の一本化、支援の透明性 ○目標額5,000万円に向けた企業・団体の積極的協力					
造船・海洋人材育成・研究開発拠点整備 海洋再生エネルギー 大型客船建造		① ○造船・海洋人材育成等WTの検討状況・目標 ・2025年を見据えた必要な人材の把握(アンケート実施中) ・2019年の体制整備を目標	④ ○人材育成等に係る三菱重工の取組との連携 ○大型客船建造 ・現状 ・協力への謝意			③ ○ワーキングにおける検討においては造船造船産業技能者のレベルアップにつながることを期待 ○拠点設置による地域経済への波及効果 ○長崎市の積極的支援	② ○広範な海洋人材育成への貢献 ○「日本財団オーシャンイノベーションコンソーシアム」
水産振興						② ○魚を使ったご当地グルメのPR ○観光客等への情報発信強化による消費拡大、食に関わる地域産業の活性化	① ○水産業について、推進会議での検討の必要性。検討時に協力 ○長崎県における水産業の振興と人材育成 ・ブランド ・海洋観光拠点 ・水産・海洋研究者・技術者育成
BSL-4の設置に向けた取組					② ○施設への期待 ○世界最高水準の安全性を備えた拠点形成のための関係機関との連携 ○地域住民への丁寧な説明	③ ○施設の意義 ○世界最高水準の安全性の実現、地域との信頼関係構築	① ○長崎県・長崎市との合意形成等 ○今後の取組 ・世界最高水準の安全性の確保 ・地域への貢献 等

《産学官連携WTの取組》

- 【H27年度】工業高校生対策
①工業高校と工業会の連携拡充等の取組み(継続)
- 【H28年度】大学生対策
○Nなびを活用した取組
①学生情報の登録推進
・一括登録の仕組みづくり
②情報提供の拡充
・大学、企業、行政機関等の積極活用する仕組みづくり
③企業情報の充実

地元志向の醸成期間

- 企業情報等の発信、地元志向への取組等
 - ①Nなびの活用
 - ・学生属性情報の一括登録、企業情報の登録(大学、行政、企業、)
 - ・イベント情報・地元情報等の発信(企業、行政、大学)
 - ②大学生と企業の接触機会の提供
 - ・業界研究イベント(NAGASAKIしごとみらい博等)
 - ・インターンシップの推進
 - ③動画による企業情報の発信
 - 長崎キラリカンパニー(市)、やるバイ元気宣言(企業)、テレビCM(企業)等
- 大学の取組
 - ・COC+事業の推進
- 企業の取組
 - ・企業PR、就業環境整備(処遇、キャリア支援等)等

就職活動期間

- 就職支援機関の取組
 - ・企業説明会・面談会等
 - ・Nなびマッチング情報
 - 大学の取組
 - ・就職支援部門のサポート
- (学生・企業のマイナビ、リクナビ等の活用)

企業

- 課題
- ・企業PR、就業環境整備、大学等との連携
 - ・Nなびの活用

- 求人票の早期提出
- 採用スケジュールに合わせた取組

大学

県内6大学によるCOC+

- ・COC+事業の推進(1~4年生)
- ・大学生のNなび一括登録 ⇒ 県内全大学への展開

県

就職支援サイトNなび

- 《県外進学・就職者への情報発信》
- 課題① Nなび活用に向けたインフラの整備
- a 大学生の属性情報一括登録の推進
 - b 企業情報の登録推進
- 課題② Nなびの活用
- c 各種情報の発信
 - ・企業情報(新規・変更登録先)
 - ・イベント情報
 - ・その他
 - d 関係者(企業、大学、行政)による活用推進

《就職活動期間(4年生)》

- 各種情報の発信
 - ・求人情報と求職情報のマッチング
 - ・イベント情報 等

メーリングリスト

県内高校卒業生の

《県外進学・就職者への情報発信》

- ・ふるさと情報 等

年賀状プロジェクト検証報告並びに次回取組について

推進会議資料 (29.1.26)

資料 6

事項	内容	備考																					
スキーム	○推進会議で夜景・世界遺産のデザインを制作したうえで、これを各事業所・市民の皆さまに利用頂く。供給ツールとしては次の2つ。 ・県内印刷会社に提供、この営業を通じた利用。 ・推進会議のWEBサイトに掲載、これをダウンロードして利用。	○前回と同様																					
実績	○合計396千枚（一部推計値）（前回比：52千枚、15%増） <table border="1" data-bbox="448 422 1272 762"> <thead> <tr> <th>内訳</th> <th>実績</th> <th>前回比</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>WEB</td> <td>328千枚 (推計値 ※1)</td> <td>増加 76千枚、30%</td> </tr> <tr> <td>印刷会社</td> <td>68千枚</td> <td>減少 24千枚、26%</td> </tr> </tbody> </table>	内訳	実績	前回比	WEB	328千枚 (推計値 ※1)	増加 76千枚、30%	印刷会社	68千枚	減少 24千枚、26%	○シェア並びに前回実績との比較 <table border="1" data-bbox="1288 422 1989 571"> <thead> <tr> <th></th> <th>市内総枚数 (推計・千枚)</th> <th>実績 (千枚)</th> <th>シェア (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>今回</td> <td>9,720</td> <td>396</td> <td>4.1</td> </tr> <tr> <td>前回</td> <td>10,962</td> <td>344</td> <td>3.1</td> </tr> </tbody> </table> 年賀状国民一人当枚数→H28 25.2枚、H29 22.5枚 ○増減要因 ・スーパー・コンビニへのポスター等の設置など、一般個人への広報ツールを増加させた一方で、題材（世界遺産・夜景）の新鮮味が欠けていた。		市内総枚数 (推計・千枚)	実績 (千枚)	シェア (%)	今回	9,720	396	4.1	前回	10,962	344	3.1
内訳	実績	前回比																					
WEB	328千枚 (推計値 ※1)	増加 76千枚、30%																					
印刷会社	68千枚	減少 24千枚、26%																					
	市内総枚数 (推計・千枚)	実績 (千枚)	シェア (%)																				
今回	9,720	396	4.1																				
前回	10,962	344	3.1																				
コスト	○合計787千円（前回比：△61千円） （内訳） <ul style="list-style-type: none"> ・WEBサイト関係・・・・・・・・184千円 ・デザイン制作・・・・・・・・162千円 ・チラシ・ポスター作成・・・・307千円 ・その他・・・・・・・・134千円 	○前回 ・合計848千円																					
利用促進活動	○関係団体へのチラシ・ポスター配布とデータ送付 ・長崎サミットプロジェクト関係団体等にチラシ15,000枚、ポスター配布。あわせて県・市・三菱重工など大口先に対してはデザイナーデータを送付。 ○連携と分担 ・「連携と分担」の方針のもと、長崎市・商工会議所・地元金融機関等からの様々な協力（※2）。 ○今回から新たに得られた協力は次の通り。 ・「まるたか」「ジョイフルサン」「S東美」でのポスター設置、チラシ4,000枚配置。 ・「ファミリーマート」市内店舗でのポスター設置。 ・金融機関のデジタルサイネージでの広報。 ・県観光連盟HPでの広報。 ・長崎経済研究所「経済月報」への記事掲載	（※2） ○長崎市 <ul style="list-style-type: none"> ・広報誌「広報ながさき」への記事掲載 ・テレビ広報番組「週刊あじさい」での放映 ・市ホームページからの推進会議WEBサイトへのリンク ○長崎商工会議所 <ul style="list-style-type: none"> ・会報「会議所NEWS」への記事掲載 ・Facebookでの情報拡散 ○地元金融機関 <ul style="list-style-type: none"> ・銀行営業先へのチラシ配布 他																					

課題	<p>主な点は次の二つ</p> <p>○題材の新鮮味</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回の4つの題材の内、3つは夜景と世界遺産（軍艦島・旧グラバー住宅）。いずれも2回目の利用であることから、新鮮味に欠け訴求力が低下したものと思われる（印刷会社からのヒアリングより）。 <p>○市民（個人）への浸透</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業所に対しては各関係団体の協力も頂き相応に広報できたものと思われる。一方で、市民（個人）レベルにおいては、「ファミマ以外のコンビニ大手2社を巻き込む事ができなかった」、「スーパーへのアプローチ時期が11月中旬～下旬と遅かった」事などを踏まえると、それを改善することで市民への浸透力は向上するものと思われる。 	<p>○今後本スキームを継続すると仮定した場合の題材</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H29 出島表門橋架橋 ・H30 世界遺産登録？（長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産） ・県産品
検証総括	<ul style="list-style-type: none"> ・過去3回継続する中で、実績枚数並びにシェアは僅かではあるが着実に増加しており一方で、コストは年々減少している。 ・上記課題をクリアすることなどで、改善が見込まれる。 ・「連携と分担」は着実に進化しており、サミットプロジェクト全体の方針に沿った取組になっている。 ・年賀状への取組が恒例プロジェクトとして定着してきており、多少なりとも「情報発信力の強化」に繋がっていると思われる。 	
次回取組	<p>○以上の検証を踏まえ次のような対応としたい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き年賀状を活用した情報発信に取り組む事とし、基本的には今回のスキームを踏襲する。あわせて上記課題等を意識した対応を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・題材については、世界遺産登録の後押しの意味も含め上記「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」とする。

(※1) 11月16日～12月31日のダウンロード数(A)と1月1日～7日までのダウンロード数(B)をベースに、 $(A) \times 37.6$ 枚(リサーチバンクによる統計数値「1人当たりの年賀状出状枚数」より)と $(B) \times 5$ 枚を合算して算出。